


 2019年11月21日
 株式会社リクルートライフスタイル

飲食店の深夜営業の利用実態と深夜営業への考えを調査
月間で深夜（午前0～5時）に外食をした人は10.5%
ここ1年間で深夜の外食機会が減った人は23.3%
飲食店の深夜営業「自分には必要」、20・30代男性で2割以上

株式会社リクルートライフスタイル（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：浅野 健）の外食市場に関する調査・研究機関「ホットペッパーグルメ外食総研」（<https://www.hotpepper.jp/ggs/>）は、飲食店の深夜営業の利用実態や、深夜営業への考えについて、アンケートを実施しましたのでその結果を発表いたします。

<要約>

**POINT1 月間で飲食店の深夜営業（午前0～5時）を利用した人は10.5%。
 最多のシチュエーションは「飲み会後の2次会や締め食事等で」**

・・・ P3-4

- 飲食店の深夜営業（午前0～5時の利用）について、調査した1カ月間（2019年9月）に利用した人の割合は10.5%。利用した人の平均深夜利用回数は2.9回。
- 利用割合が高かったのは、20代男性が17.9%、30代男性が16.6%、20代女性が14.8%等。年代が若いほど、利用者の割合が多い傾向。
- 利用シチュエーションは「飲み会後の2次会や締め食事等で」が28.0%、「残業で仕事の終了が遅くなった」が17.6%。20・30代男性は「残業で仕事の終了が遅くなった」人が3割強と高い割合。

POINT2 ここ1年で深夜外食が「減った」と思う人が23.3% ・・・ P5

- 1年前と比べて、深夜外食の利用機会は、「減った・計」が23.3%で「増えた・計」の4.7%を大きく上回る。

**POINT3 飲食店の深夜営業、「自分にとっての必要性を感じる」人は13.5%。
 飲食店の深夜料金、「仕方ない」と思う人が57.6%** ・・・ P6-7

- 飲食店の深夜営業、「自分にとっての必要性を感じる」人は13.5%、「自分にとっての必要性を感じない」人は68.3%。「自分にとって必要性を感じる」人は20代男性（27.7%）、30代男性（23.7%）で多く、深夜外食を利用する若い年代ほど必要性が高い結果。
- 深夜料金の発生、「仕方ないと思う」人は57.6%で、「思わない」人は17.4%。

【本件に関するお問い合わせ先】

<https://www.recruit-lifestyle.co.jp/support/press>

調査概要と回答者プロフィール

- ◎調査名 外食市場調査(2019年9月度)
- ◎調査方法 インターネットによる調査
首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の外食および中食のマーケット規模を把握することを目的に実施した調査(外食マーケット基礎調査)の中で、飲食店における深夜営業時間帯について、利用状況や利用した理由、昨年と比較した利用頻度の変化、深夜営業に対する考えなどを聴取。
- ◎調査対象 首都圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県)、関西圏(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県)、東海圏(愛知県、岐阜県、三重県)に住む20～69歳の男女(株式会社マクロミルの登録モニター)

■事前調査

- ①調査目的 本調査の協力者を募集するために実施
- ②調査時期 2019年8月22日(木)～2019年9月3日(火)
- ③調査対象 首都圏、関西圏、東海圏に住む20～69歳の男女(株式会社マクロミルの登録モニター)
- ④調査内容 本調査への協力意向、普段の外食頻度、普段の中食頻度
- ⑤配信数 485,425 件
- ⑥回収数 32,626 件
- ⑦本調査対象者数 15,905 件

- ◆本調査対象者の割付について
- ・本調査では、回答者の偏りをできるだけなくすために、割付を行って回収した。
 - ・性年代別10区分×地域別25区分(首都圏地域13区分、関西圏地域8区分、東海圏地域4区分)=250セルについて、平成29年人口推計(総務省)に基づき割付を行った。
 - ・本調査の目標回収数は、首都圏4,000s、関西圏2,000s、東海圏2,000s、合計8,000sとした。

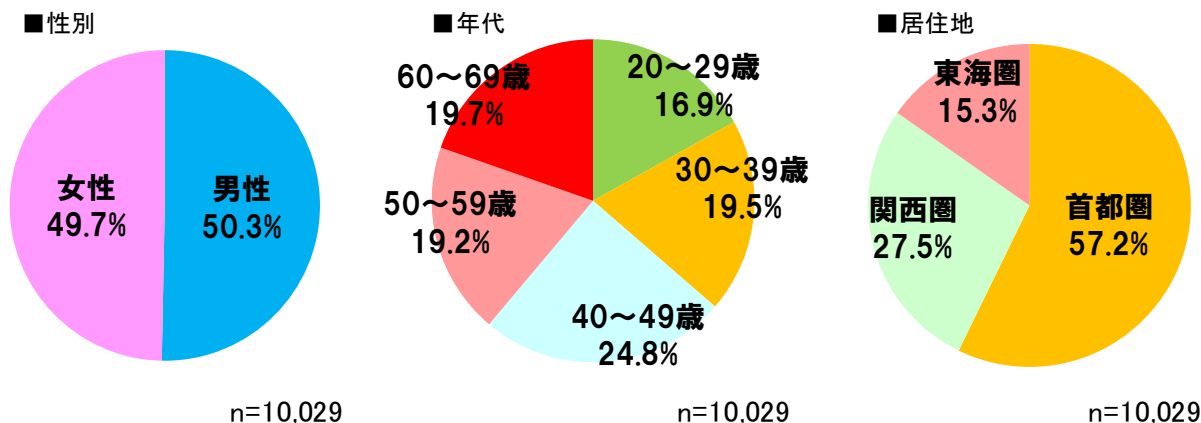
■本調査

- ①調査方法 事前調査で本調査への協力意向が得られたモニターの中から、脱落率を加味して設定した必要数をランダムに抽出し、本調査の案内メールを通知。
- ②調査期間 2019年10月1日(火)～2019年10月8日(火)
- ③配信数 12,791 件
- ④回収数 10,097 件 (回収率 78.9 %)
- ⑤有効回答数 10,029 件 (首都圏 5,097 件、関西圏 2,575 件、東海圏 2,357 件)

※回収された票のうち、自由回答コメントから、趣旨に合わないかと判断された票を無効としたほか、事前調査時の普段の外食・中食頻度の回答と、本調査時の1か月間の外食・中食回数が著しく乖離している場合、事前調査時の住所と、本調査時の住所が、圏域を越えて変わっている場合を無効とした。

- ◆集計方法について
- ・本調査結果は、平成29年人口推計(総務省)における割付(性年代別10区分×地域別25区分=250セル)別の構成比に合わせてサンプル数を補正したウェイトバック集計を行っている。
 - ・補正後のサンプル数は次の通り。
3圏域・計 10,029 件(首都圏: 5,740 件、関西圏: 2,757 件、東海圏: 1,532 件)

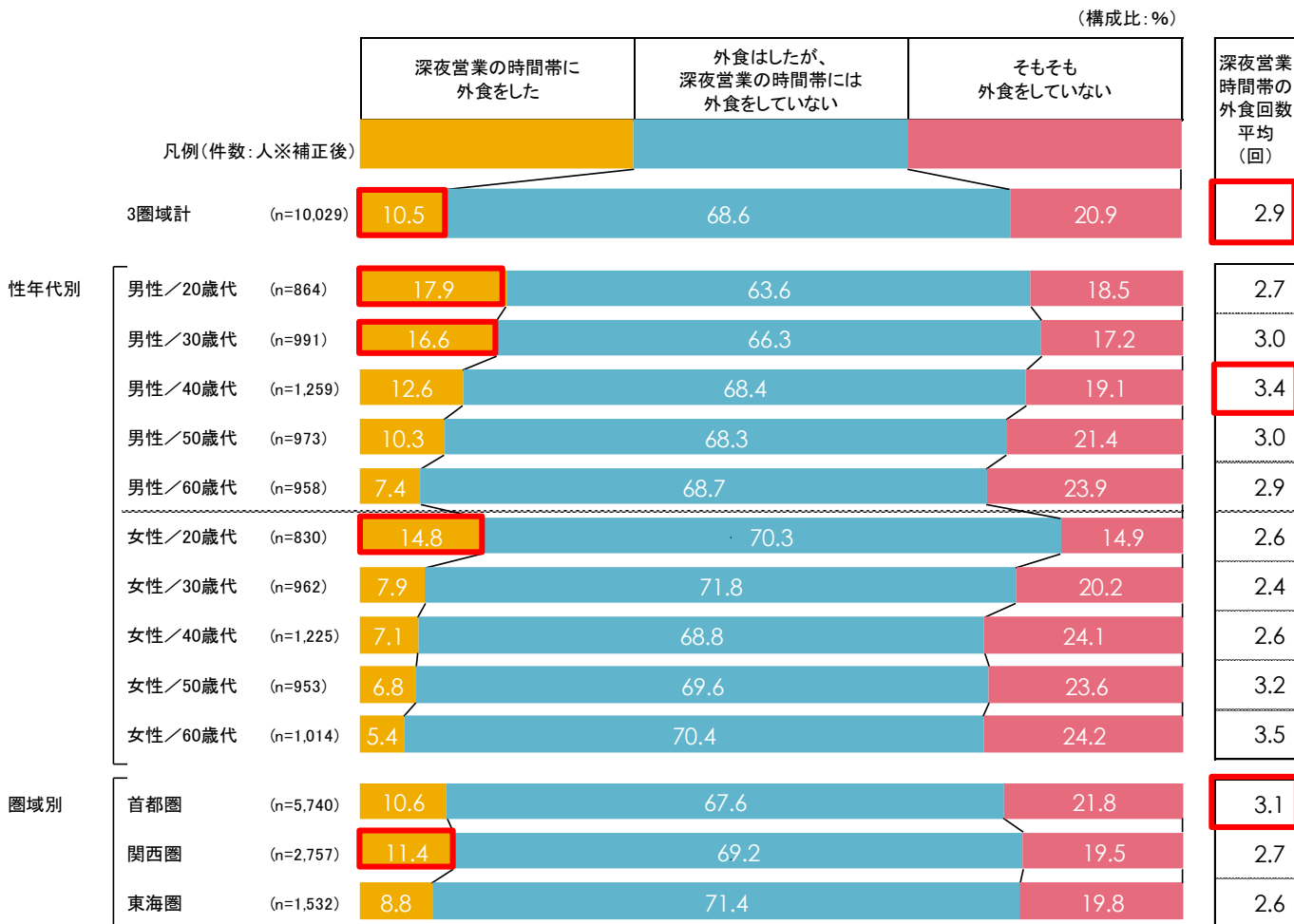
◆回答者プロフィール(ウェイトバック後)



1. 2019年9月に、飲食店の深夜営業（午前0～5時）を利用した人の割合は10.5%

飲食店での深夜営業（本調査では午前0～5時の利用と定義）について、まずはカスタマーの利用率を調べた。2019年9月の外食において、深夜営業を利用したことがある人の割合は10.5%、利用した人の平均深夜利用回数は2.9回であった。性年代別で見ると、最も利用者の割合が多かったのは、20代男性で17.9%。次いで、30代男性が16.6%、さらに20代女性で14.8%となっている。年代が若いほど、利用者の割合が多い傾向にあるが、利用した人の平均深夜利用回数では、40代男性が3.4回と最も多かった。圏域別では、深夜営業を利用したことがある人の割合が最も多かったのが関西圏で11.4%。ただし、利用した人の平均深夜利用回数は首都圏が3.1回と多かった。

■深夜営業の時間帯の外食有無（全体／単一回答）



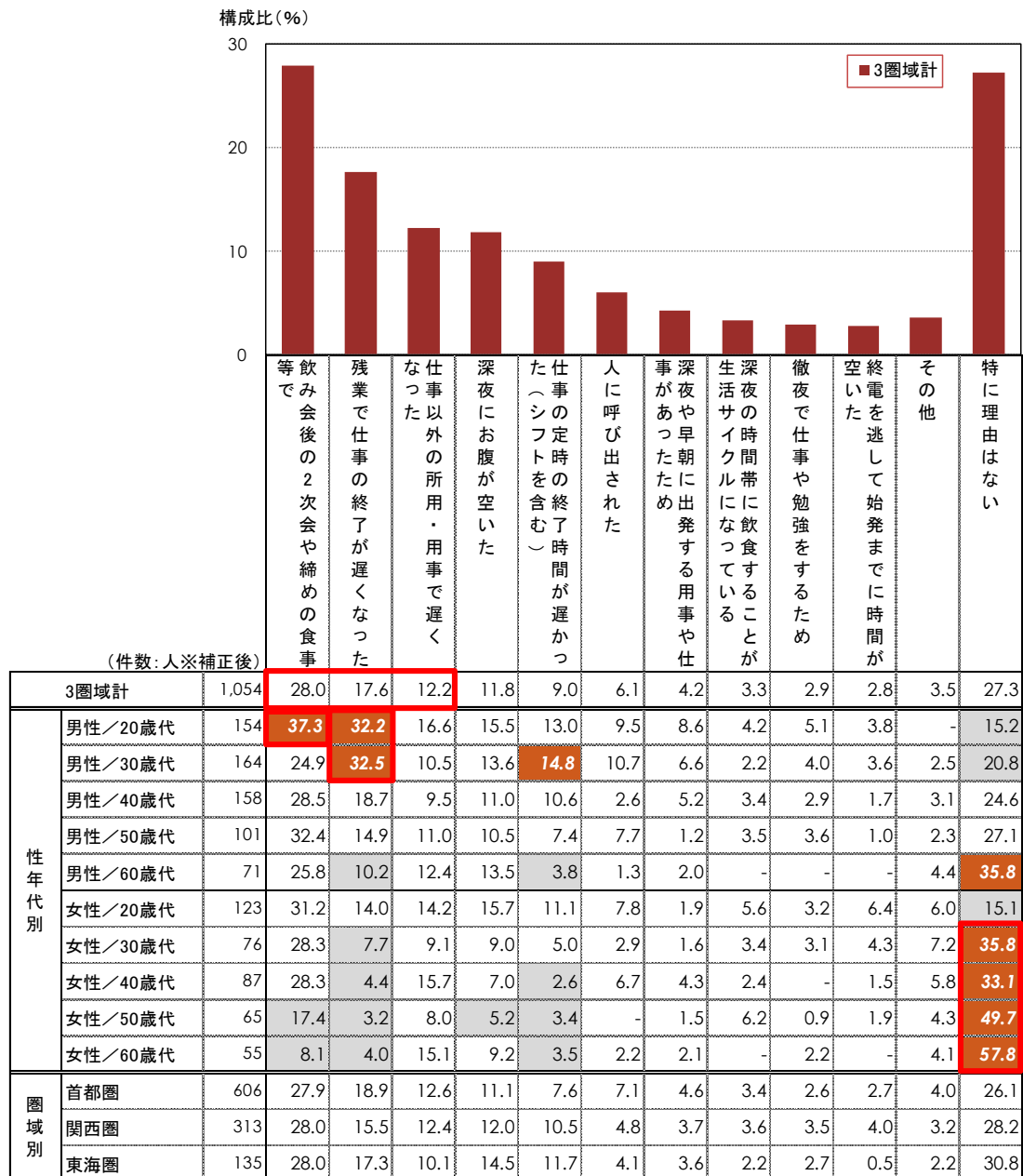
※「深夜営業の時間帯に外食をした」：「深夜営業の時間帯に外食をした回数」に「1回」以上と回答した人を集計
 ※「外食はしたが、深夜営業の時間帯には外食をしていない」：「外食回数」に「1回」以上と回答したものの、「深夜営業の時間帯に外食をした回数」に「0回」と回答した人を集計
 ※「深夜営業時間帯の外食回数平均」は、「深夜営業の時間帯に外食をした」人の平均回数

2. 深夜外食のシチュエーション、トップは「飲み会後の2次会や締め食事等で」28.0%

2019年9月に飲食店の深夜営業を利用した人に対して、その時間に外食した理由やシチュエーションを聞いた。トップは「飲み会後の2次会や締めの食事等で」28.0%。また、「残業で仕事の終了が遅くなった」が17.6%、「仕事以外の所用・用事で遅くなった」が12.2%であった。性年代別で見ると、20代男性では「飲み会後の2次会や締めの食事等で」が37.3%と多い他、「残業で仕事の終了が遅くなった」が20代男性で32.2%、30代男性で32.5%と多く、30～60代女性では「特に理由はない」が多かった。

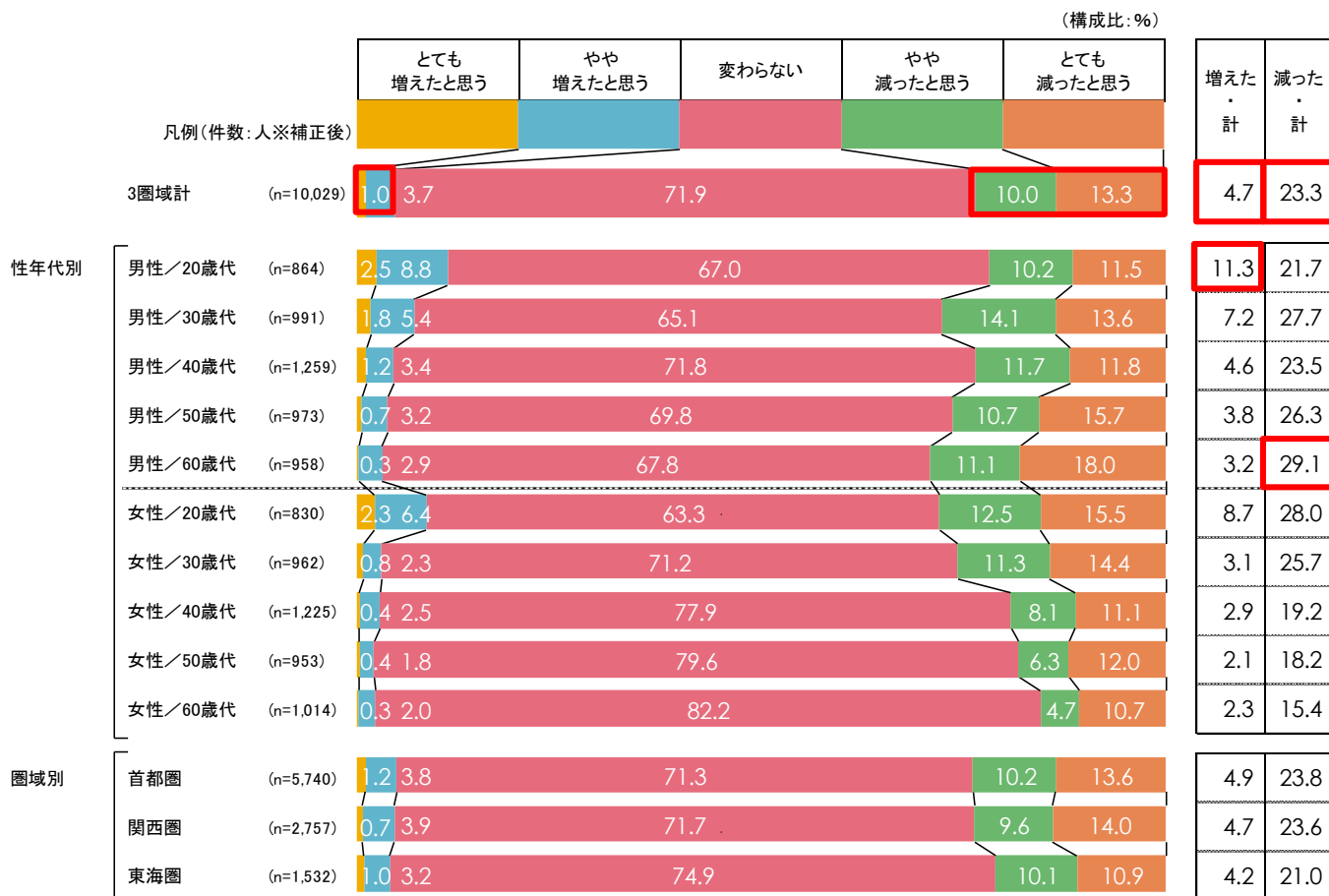
■ 深夜営業の時間帯に外食した理由・シチュエーション

(2019年9月の深夜営業の時間帯に外食した人／複数回答)



3. ここ1年で深夜外食が「減ったと思う」人が23.3%。「増えたと思う」人を大きく上回る
 1年前と比べた深夜外食の利用機会の増減について聞いた。「変わらない」が71.9%と大半ではあるものの、「とても増えたと思う」と「やや増えたと思う」の合計である「増えた・計」は4.7%に対し、「とても減ったと思う」と「やや減ったと思う」の合計である「減った・計」は23.3%と、深夜の外食が減少傾向であることが分かった。「増えた・計」が最も多かったのは20代男性で11.3%、「減った・計」が最も多いのは60代男性で29.1%であった。

■ 1年前と比べた深夜営業の時間帯を利用する機会の変化（全体／単一回答）

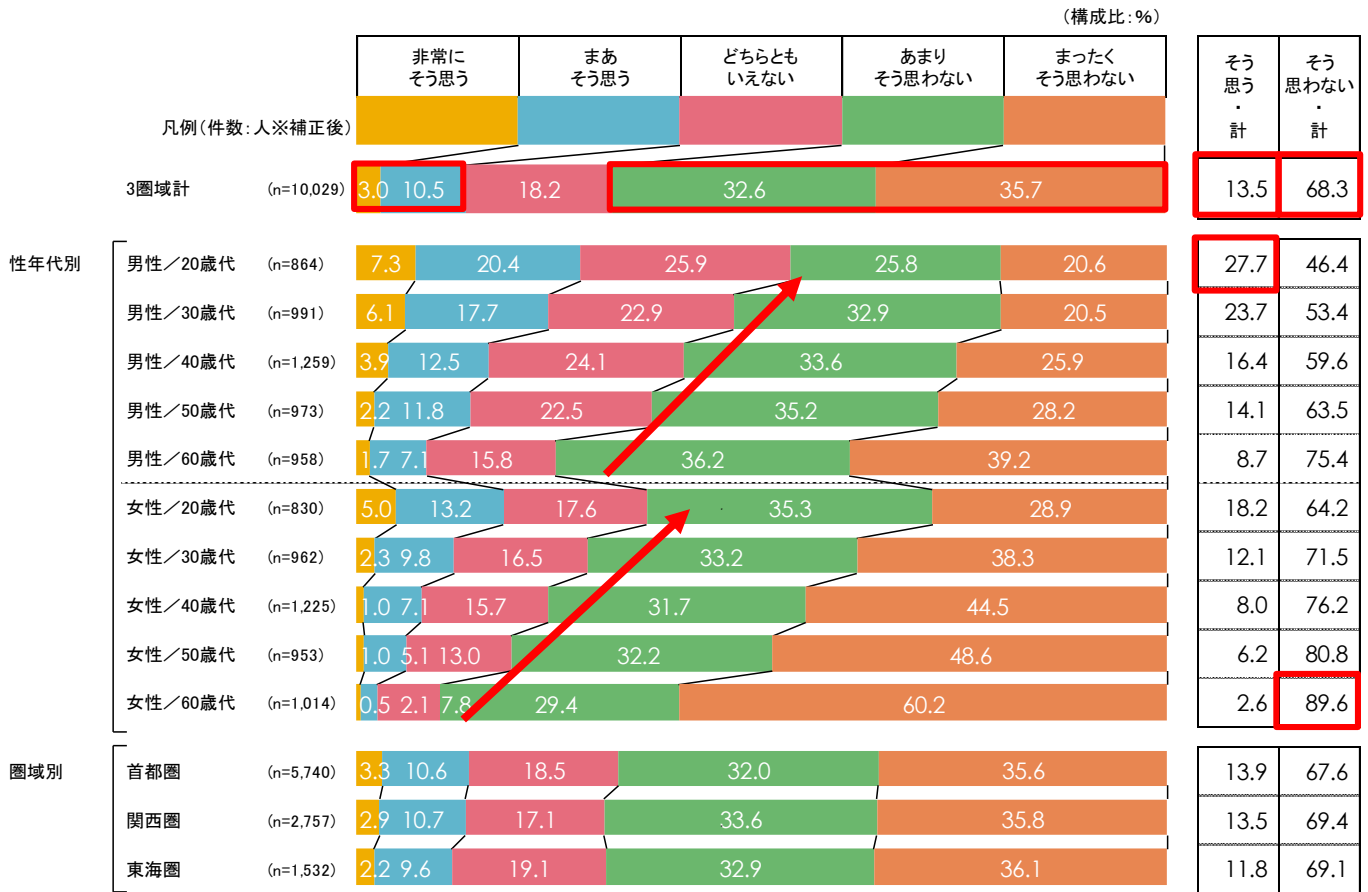


※「増えた・計」：「とても増えたと思う」「やや増えたと思う」のいずれかに回答した人を集計
 ※「減った・計」：「とても減ったと思う」「やや減ったと思う」のいずれかに回答した人を集計

4. 飲食店の深夜営業、自分にとっての必要性を感じる人は13.5%

飲食店の深夜営業について自分にとっての必要性を感じるかどうかを聞いた。「非常にそう思う」と「まあそう思う」の合計の「そう思う・計」は13.5%。「まったくそう思わない」と「あまりそう思わない」の合計の「そう思わない・計」は68.3%と、必要性を感じない人が多数派である一方で、一定の市場があることがわかる。性年代別では、20代男性で「そう思う・計」が最も多く27.7%。逆に60代女性で「そう思わない・計」が最も多く89.6%。年代別には男女とも年代が若いほど自分にとっての必要性を感じる人が多く、前出の1カ月間の深夜外食の利用者層と同じ傾向となっている。当たり前のことではあるが、深夜外食を利用している若い世代は相対的に必要性が高いということが言える。

■ 飲食店の深夜営業に対する考え／飲食店の深夜営業は、自分にとって必要だ（全体／単一回答）



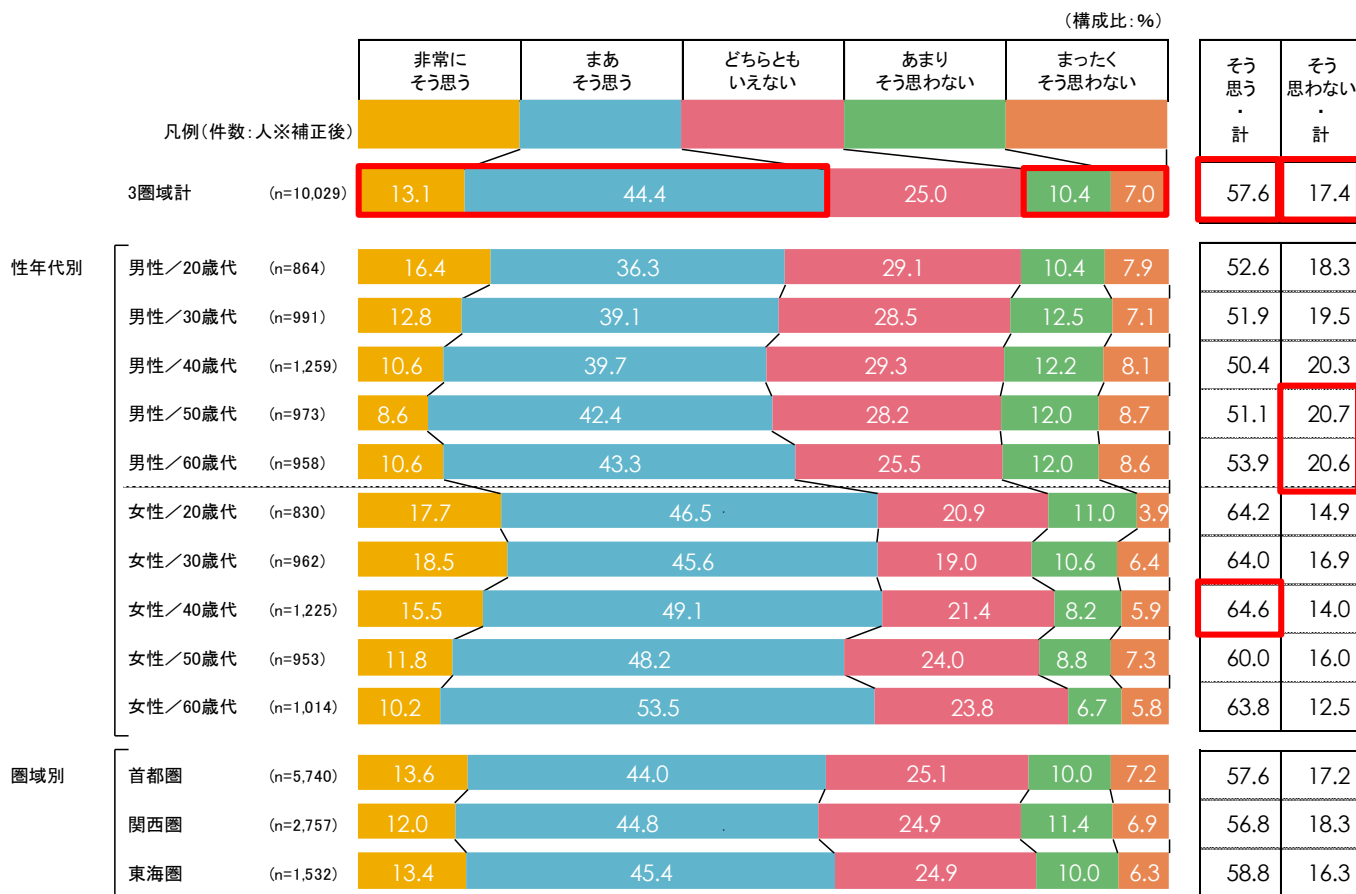
※ 「そう思う・計」: 「非常にそう思う」「まあそう思う」のいずれかに回答した人を集計

※ 「そう思わない・計」: 「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」のいずれかに回答した人を集計

5. 飲食店の深夜料金、「仕方ないと思う」人が57.6%

深夜外食の際に追加で深夜料金が発生することについて、仕方ないと思うかを聞いた。「非常にそう思う」と「まあそう思う」の合計の「そう思う・計」が57.6%、「まったくそう思わない」と「あまりそう思わない」の合計の「そう思わない・計」が17.4%と、「仕方ないと思う」人が多数派であった。ただし、2019年9月に一度も深夜外食をしていない人が9割近くいることを考えると、「そう思わない・計」の17.4%が少ないと言い切ることはできない。性年代別には、「そう思う・計」が最も多かったのが40代女性で64.6%、女性は全年代で「そう思う・計」が6割を超えている。一方で、「そう思わない・計」が最も多かったのは、50代男性で20.7%、また、60代男性も僅差の20.6%となっている。利用度の高い20・30代男性では「そう思う・計」が平均より少ない結果であった。利用しない人に比べると、より切実な問題なのかもしれない。

■ 飲食店の深夜営業に対する考え／飲食店で深夜料金（追加料金）が発生しても仕方ないと思う （全体／単一回答）



※「そう思う・計」：「非常にそう思う」「まあそう思う」のいずれかに回答した人を集計

※「そう思わない・計」：「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」のいずれかに回答した人を集計